山梨県韮崎市

Shimoyokoya Site

下横屋遺跡Ⅲ

藤井町北下条字下横屋1526番地地点
宅地分譲地内道路敷設に伴う緊急発掘調査報告書

2003

韮崎市遺跡調査会

序　文

韮崎市内には現在200遺跡を越す埋蔵文化財包蔵地が確認されています。下横屋遺跡もその一つであります。本遺跡の所在する通称「藤井平」は穀倉地帯であると共に、塩川との戦いの場でもありました。このたびの調査により、当地が弥生時代から平安時代において、生活の場として使われていたことが確認されました。

当地域の歴史の紐解きに本書がお役に立つことを願い、今回の調査に甚大なるご理解とご協力をいただきました地元の皆様方へこの場を借りてお礼を申し上げる次第であります。

韮崎市遺跡調査会
事務局長　輿石　薫

例　　言

1　本書は、山梨県韮崎市藤井町北下条字下横屋1526番地外に所在する下横屋遺跡の宅地分譲地内の道路敷設に伴う発掘調査報告書である。
2　発掘調査は、平成15年６月３日から12日まで実施し、その後発掘調査報告書の作成を引き続き行い、事業完了は10月24日である。事業は株式会社フジエステートと委託契約を締結した韮崎市遺跡調査会が実施した。
3　本書の執筆・編集は閏間俊明がおこなった。
4　発掘調査ならびに報告書作成にあたり、多くの方々からご指導・ご協力・ご鞭撻を頂いた。一々ご芳名を挙げないが厚くお礼を申し上げる次第である。
5　発掘調査・整理業務により出土並びに作成された遺物及び資料等は、韮崎市教育委員会において保管している。

調　査　組　織

1　調査主体　韮崎市遺跡調査会
　事務局長　輿石　薫
　課　　長　新藤　稔
　室　　長　横森　竹千代
　リーダー　山下孝司（学術文化財係）
　閏間俊明（　　〃　　）
2　調査担当　閏間俊明
3　調査参加者　阿部由美子・上野理江・内山こずえ・漆原弘子・小野初美

凡　　例

1　遺構・遺物の縮尺は各図に示したとおりである。
2　遺物実測図番号、観察表番号及び本文中の番号は一致する。
3　遺構の方位は各図に示したとおりであり、北は磁北によるものである。
4　公共座標の計算等は株式会社フジテクノに委託して実施した。なお、座標は旧座標を用いている。

目　　次

序　文
例　言
調査組織
凡　例
目　次
第１章　調査経過……2
第２章　遺跡の環境……2
　第１節　地理的環境
　第２節　歴史的環境
第３章　遺構と遺物……4
　第１節　遺　構
　第２節　遺　物
まとめ……9
写真図版

第１章　調査経過

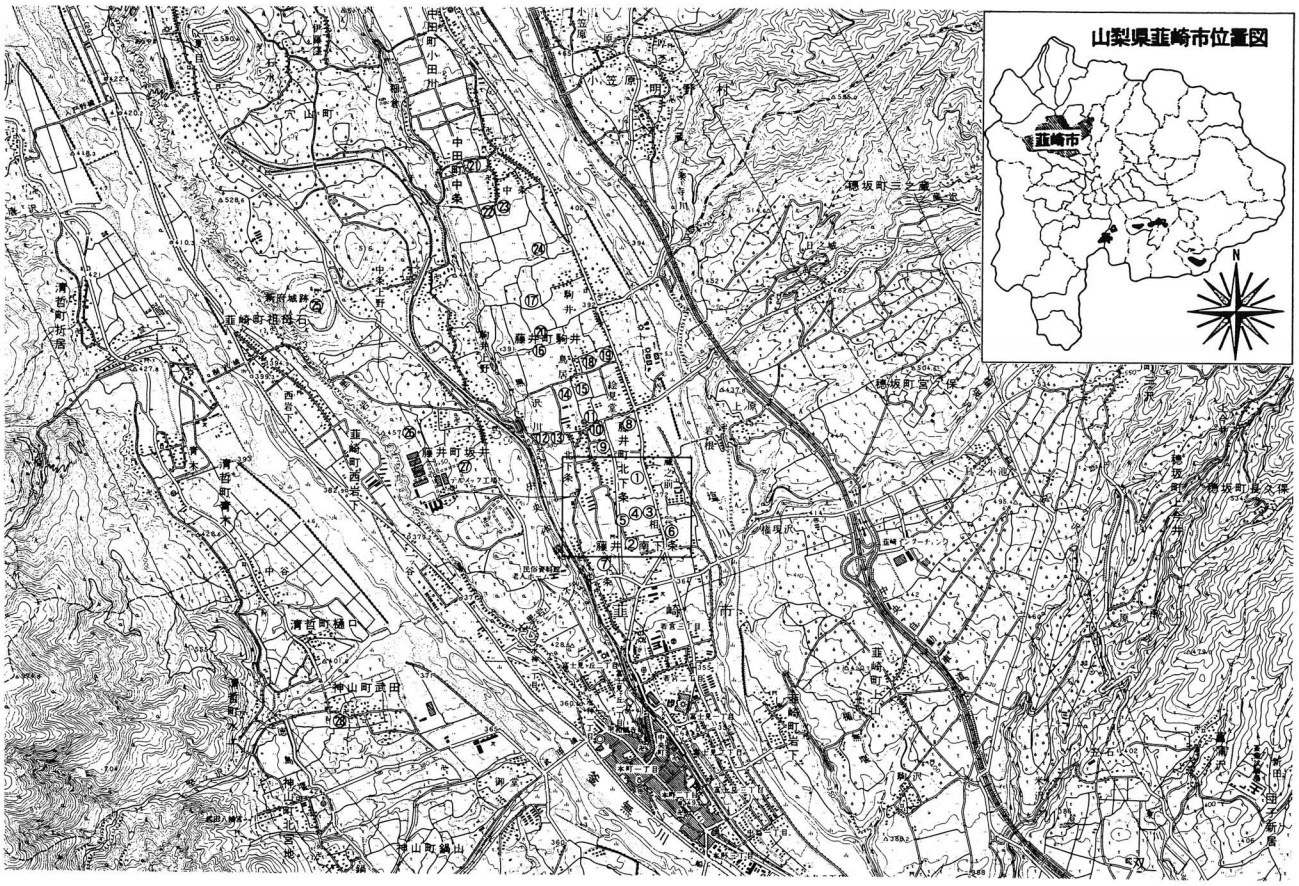
韮崎市藤井町北下条字下横屋1526番地外について平成14年12月10日株式会社フジエステートから埋蔵文化財有無確認依頼文書が韮崎市教育委員会に提出された。教育委員会では埋蔵文化財有無確認のために開発予定地に対し調査を実施した。その結果、開発予定地内のうち818㎡が埋蔵文化財包蔵地であることを確認した。開発業者との協議により、開発予定地内に新規に建設する道部分については本調査を実施し、その他の部分については盛土保存とし協定書を取り交わした。

本調査は同年６月３日に開始し、同月12日に終了した。その後、整理作業を開始し報告書を刊行し、事業を終了したのは10月24日である。

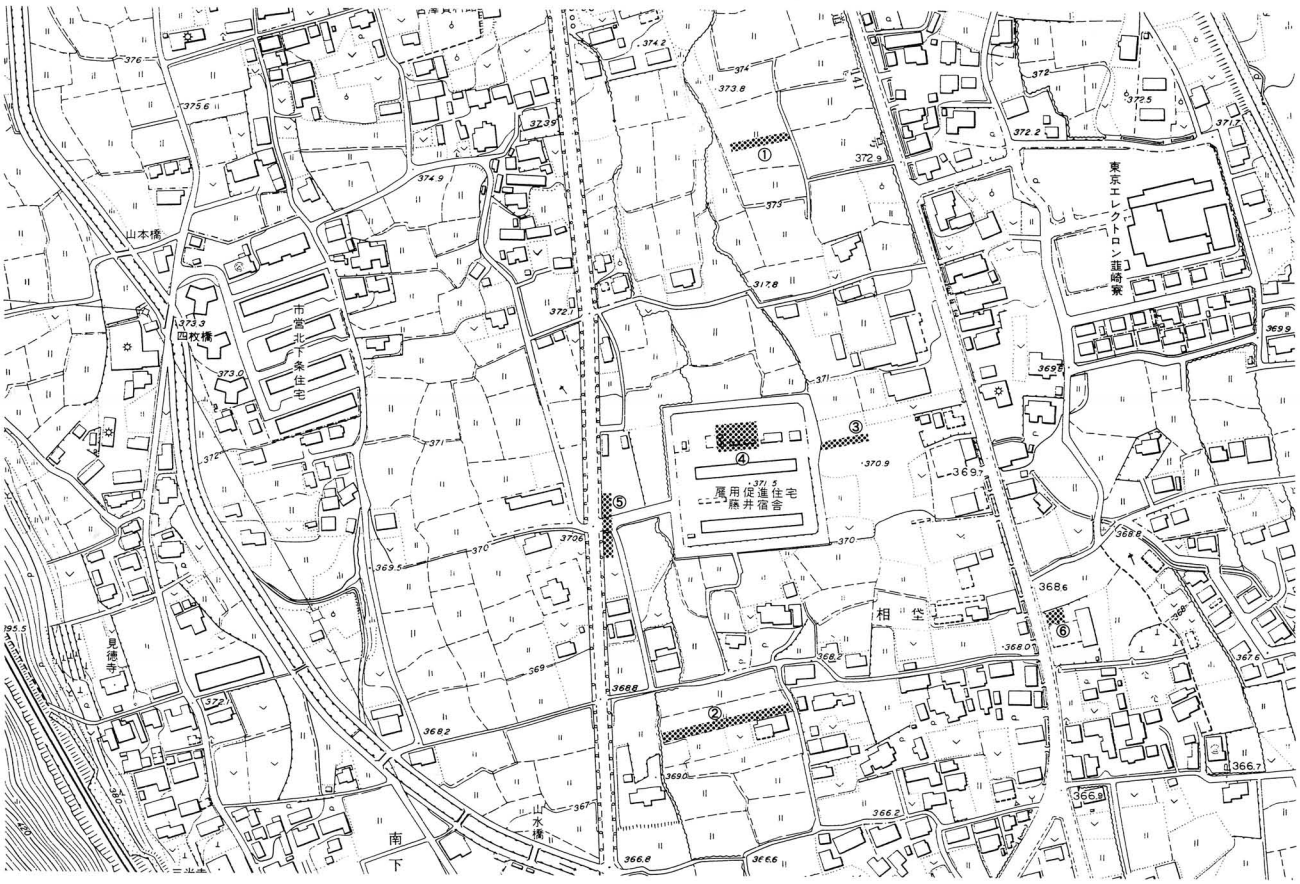
第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

遺跡の所在する藤井平は塩川と七里岩台地に挟まれた低位の河岸段丘である。下横屋遺跡は、この藤井平の中央部よりやや南側に広がり、概ね現在の蔵之前集落から相垈集落の間に相当する。南北に走る主要用水路の東側にあり、もともと塩川との間にはさまれた中州状であったことを窺い知ることができる。



第１図　下横屋第３遺跡と周辺の調査遺跡①（1/50,000）



第２図　下横屋第３遺跡と周辺の調査遺跡②（1/5,000）

第２節　歴史的環境

下横屋遺跡は今回を含めて合計４回の調査が実施され、その他に近接する遺跡としては枇杷塚遺跡⑥、上横屋遺跡⑧、後田第２遺跡⑨や後田堂ノ前遺跡⑩などの調査がされており、各時代の藤井平での生活の一端を垣間みることができる。

縄文時代では現在の韮崎北東小学校を中心に所在する宮ノ前遺跡⑯で前期終末の十三菩提式が出土しており、すでにこの頃に藤井平は塩川よりもやや高い段丘面を形成していたと考えられる。つづく中期前半までは確認された遺跡数は、七里岩台地上よりも少なく、環状集落跡などは現在のところ把握されていない。中期後半に入ると数と共に遺跡の規模もやや拡大する傾向がある。北後田遺跡や後田遺跡⑭では曽利式後半段階の配石遺構を伴う集落跡が確認されている。

縄文時代晩期から弥生時代前半にかけては遺構の確認はされていないが、遺物が大量に出土しており、藤井平に弥生文化の一翼を担う稲作の定着が始まったことを予想させる。

弥生時代終末から古墳時代前半にかけては、七里岩台地上の坂井南遺跡㉗をはじめとして遺跡数は増加する。ただし、藤井平ではこれまで方形周溝墓を確認しておらず、台地上との墓域のあり方に相違を見せている。また、集落としても坂井南遺跡のような状況のものは現在のところ例がない。今回の調査では、当該期の１号溝を検出している。遺物に摩滅は見られず、また遺構覆土に流路としての特徴は見られない。このことから、１号溝は自然流路ではなく、人為的に掘削がおこなわれた溝であり、藤井平における先人の行為の一端を示している。出土遺物には祭祀色の強いミニチュア土器があり、溝を用いての祭祀行為も想定できる。

古代に入ると藤井平では、宮ノ前遺跡群をはじめとして大規模な集落が営まれるようになる。出土した円面硯や三彩陶器などは本来官衙的な性格を持つ遺跡から出土する傾向があり、宮ノ前遺跡群が郷里および郷レベルで中心的な集落であったことが想定される。

中世遺構の調査例は現在のところ皆無である。しかし、駒井氏館跡などを始めとして土豪層が居住していたことを示す遺構や史資料は所在する。

近世に入り、本遺跡の所在する藤井町北下条は『甲斐国志』（文化年間編纂）で以下のように記されている。

北　下　条　村　　東組　　西組
一高八百八十石八斗一升　　戸　百三十六
口　四百八十八　男二百三十八
女二百五十　　馬四十三

南下条村ノ北ニ在リ其北ハ坂井ノ本村ナリ往還ノ道ヲ隔ルノミ相垈ハ南下条民ト合戸居ル絵見堂ト云ハ三蔵村ヘ渡ル絵見堂橋ノ下ニ居レリ蔵前右三所ヲ東組ト呼ブ里正一人別ニ置ク

『甲斐国志』の編纂された文化年間の村の公式記録である。往還とは佐久往還を示し、坂井村との境界をなしていたことが記されている。

このように藤井平は塩川との比高差のない中で、度重なる氾濫と共にもたらされた肥沃な土地を媒体として、弥生時代以降稲作を中心に耕作がおこなわれると共に、郷レベルにおいて中心的な場所として成立していたといえる。

第３章　遺構と遺物

第１節　遺　構

１号竪穴住居跡（第５図）

調査区西部に位置し、竪穴南東部のみの調査である。西側は、試掘時に床土以下砂礫層であり旧地表面は削平されていることを確認している。床面は脆弱であり、周溝は存在していない。西側の田圃との区画をなすコンクリ壁をはずしたところ、ピットを検出し、住居に付属する柱穴と考えられる。

出土した遺物から平安時代後期の所産といえる。

１号溝（第４図）

調査区内を東西に走る幅約10cm、深さ約10cm（確認面から）長さ13.5mのほぼ直線的な溝である。床土（Ⅱ層）が覆土の主体である。ただし、現状の地割とはやや軸が異なることから近世以前のものと考えられ、床土が含まれることから水田の構造物の一つといえるが具体的な用途については不明である。

遺物は出土していない。

２号溝（第６図）

調査区内を南北に走る幅10m、深さ30cmのやや不整な直線的な溝である。溝東側で深くなり、西に向って緩やかに立ち上がる。

遺物は南側にやや集中する傾向がある。

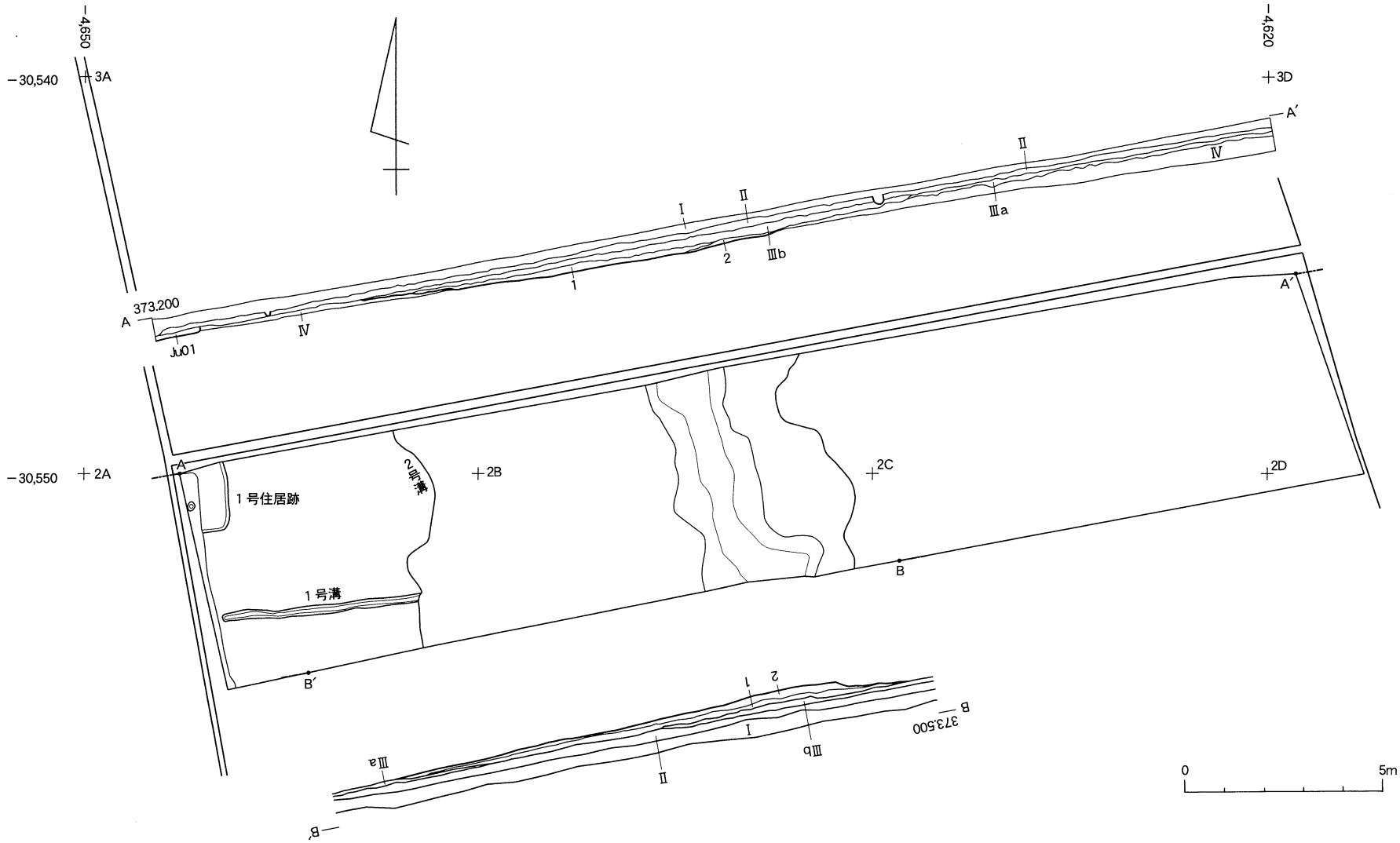
第２節　遺　物

１号竪穴住居跡（第７図）

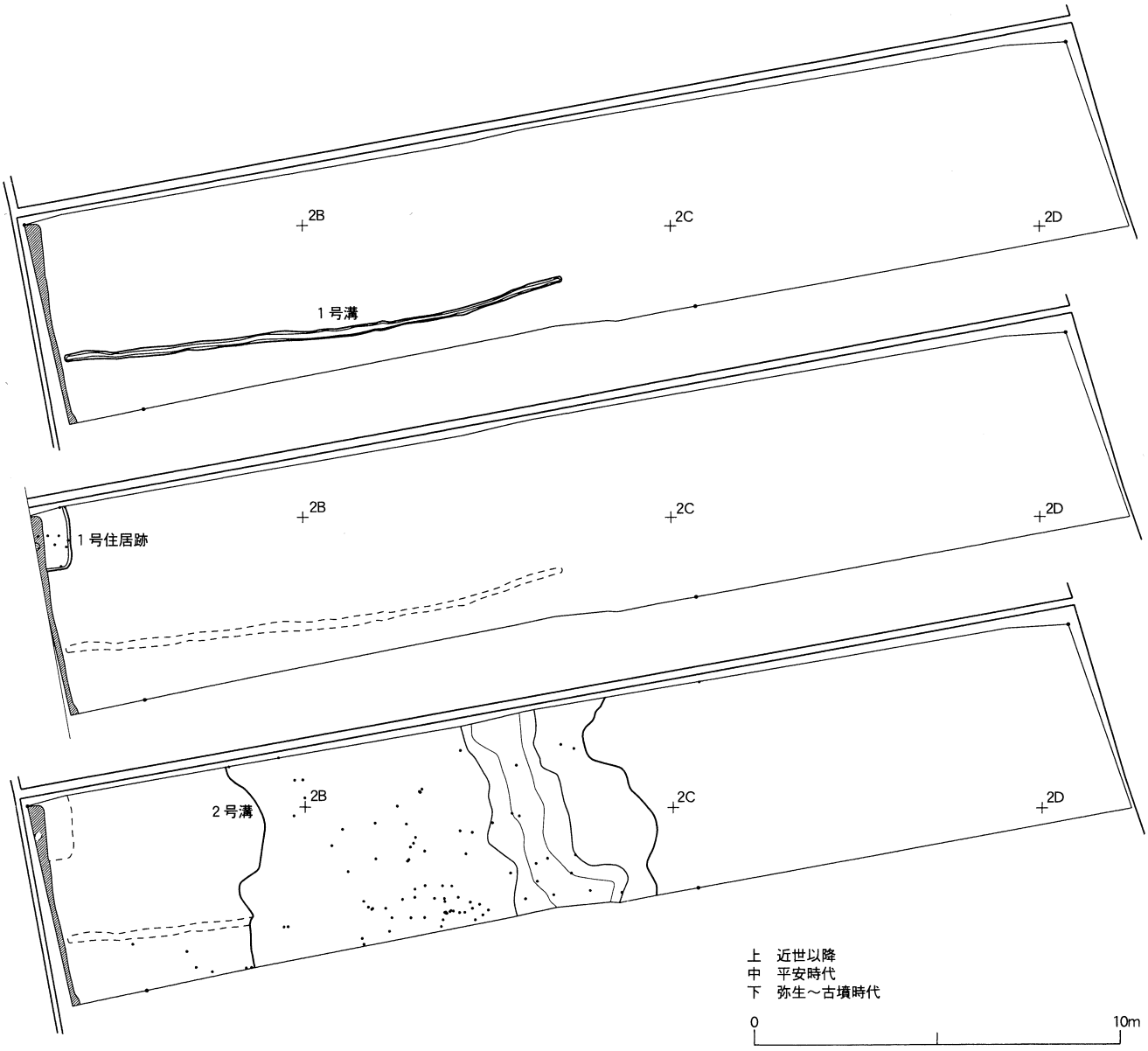
白磁皿が１点出土している。その他に土師器が出土しているが、図化しえなかった。

２号溝跡（第７図）

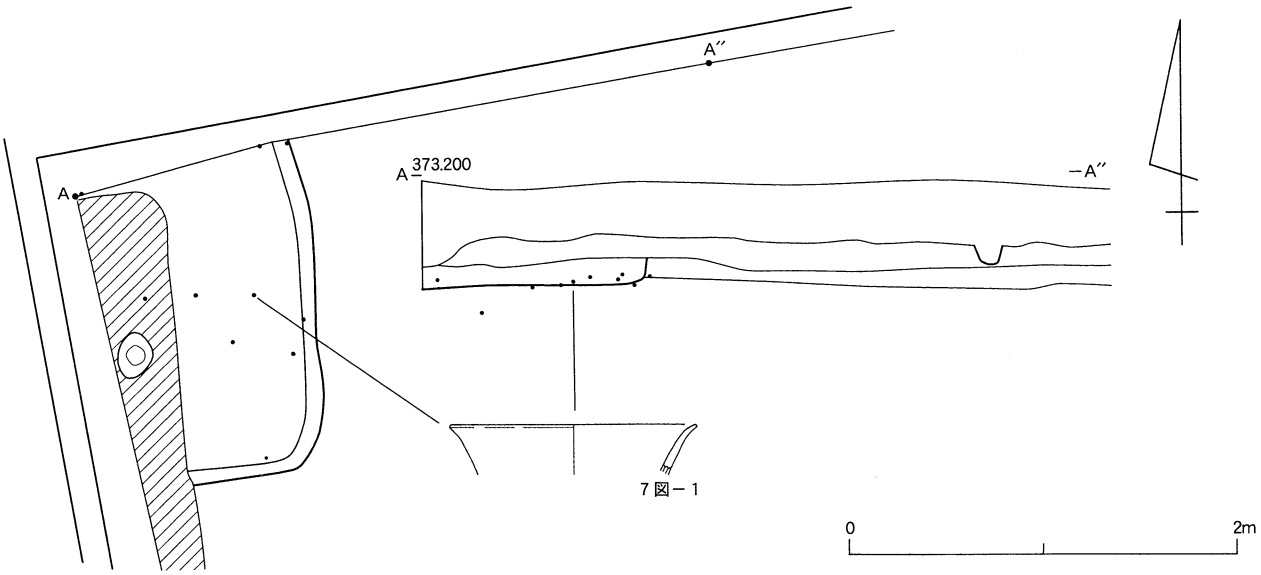
弥生時代後半から古墳時代前半の遺物が出土した。いずれの遺物も摩滅は認められなかった。



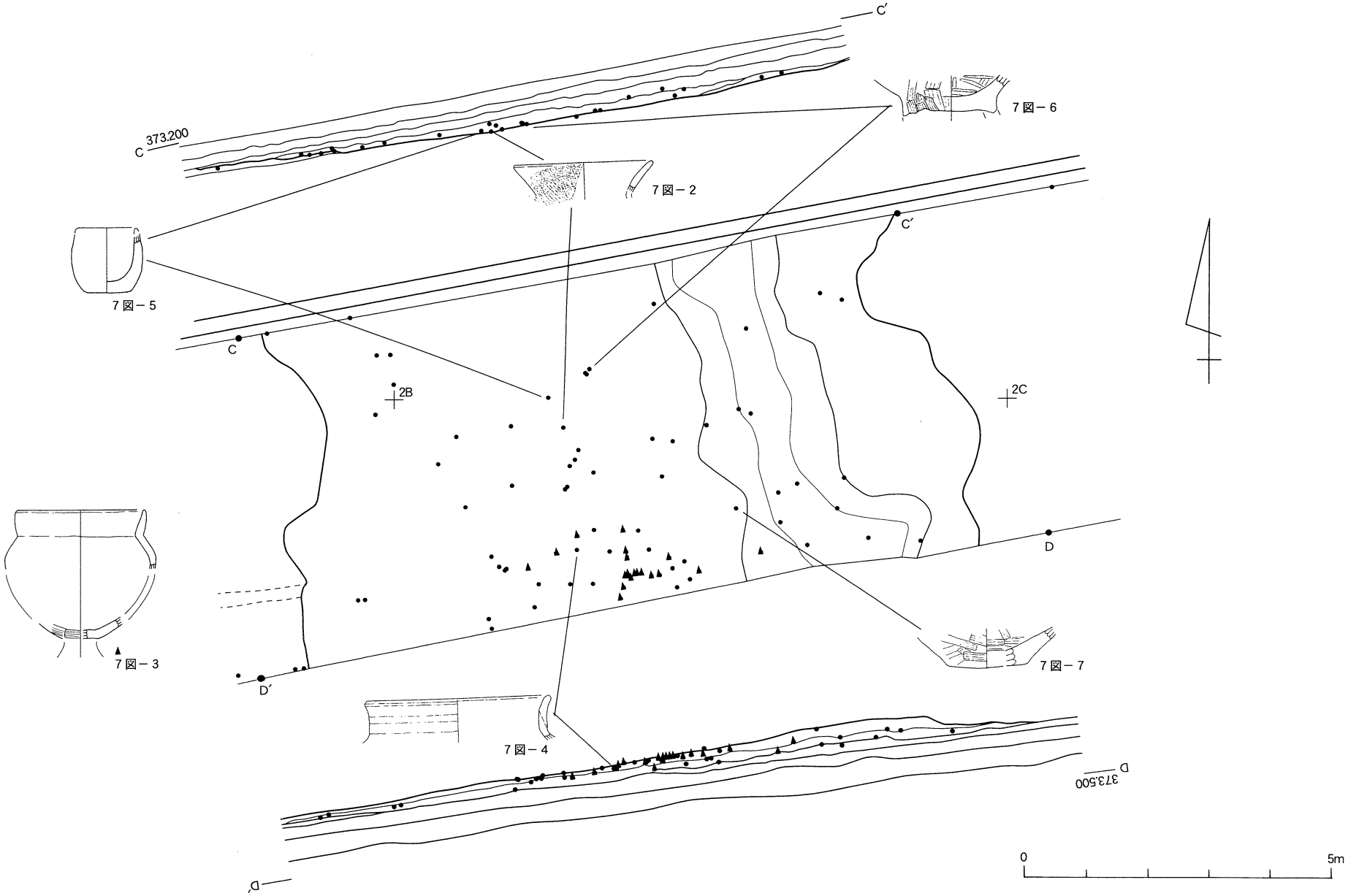
第３図　調査区内遺構位置図及び土層断面図（Ｓ＝1/150）



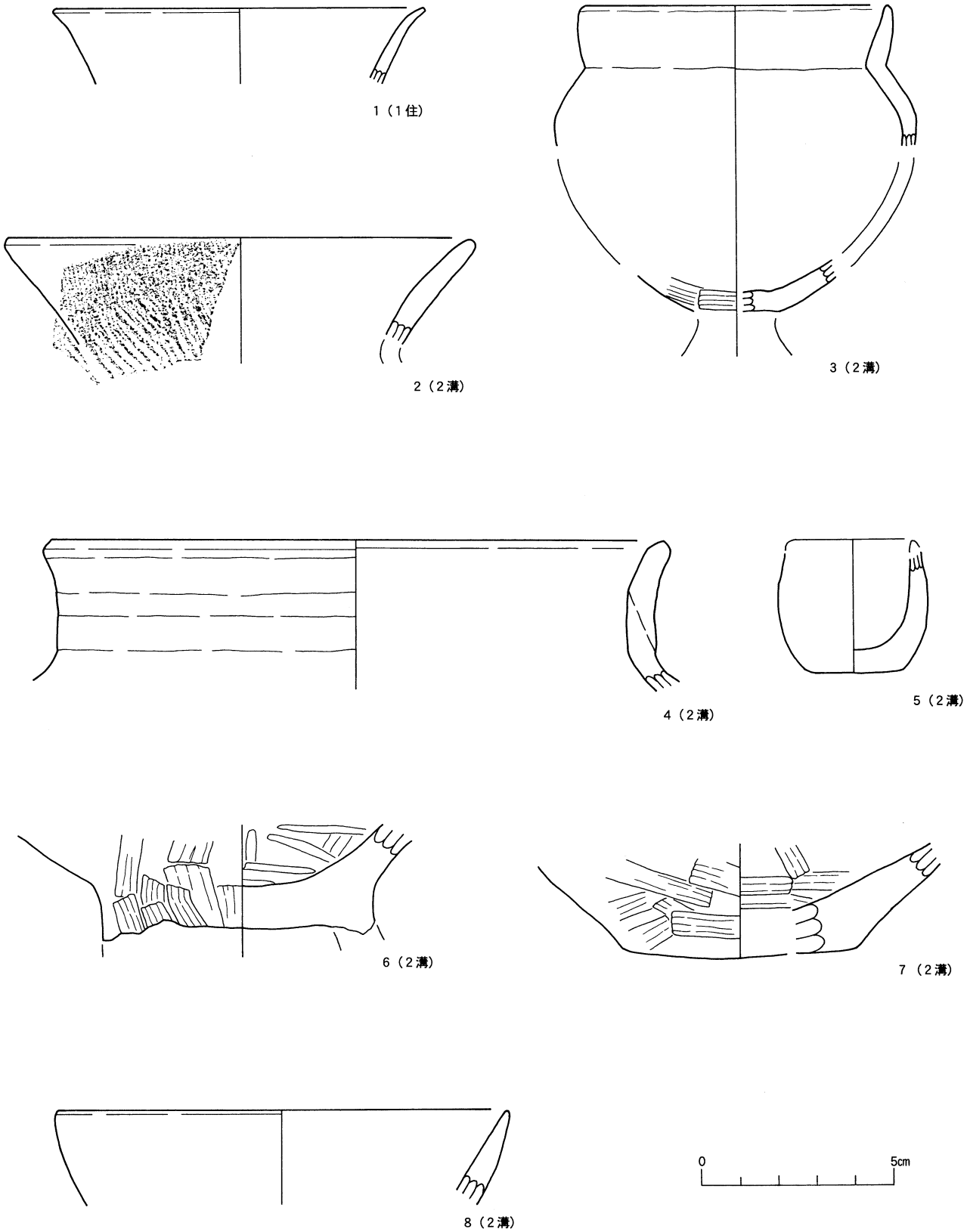
第４図　時期別遺構・遺物出土状況図（Ｓ＝1/180）



第５図　１号住居跡平・断面図（Ｓ＝1/39）



第６図　２号溝平・断面図（Ｓ＝1/90）



第７図　出土遺物（S＝2/3）

ま と め

今回の調査は埋蔵文化財保護行政の本来の目的である、遺跡の現地保存が達成されたものといえる。これはひとえに地権者や開発業者の理解と協力により成立するといえる。多くの開発予定地に対して保存処置をとることができたため、発掘面積は約200㎡と狭小であったが、弥生時代の溝、平安時代の竪穴住居跡が検出され、下横屋遺跡での先人たちの土地利用の変遷を考えるうえで貴重な資料をもたらしたといえる。下横屋遺跡には今年度までに合計４回の調査が実施され、広範囲に広がる遺跡の内容が蓄積されつつある。

本報告書は、限られた時間の中で作成したものであり、出土遺構・遺物を資料化したに過ぎないが、今後の調査・研究に活用されれば幸いである。

第１表　周辺の遺跡地名表

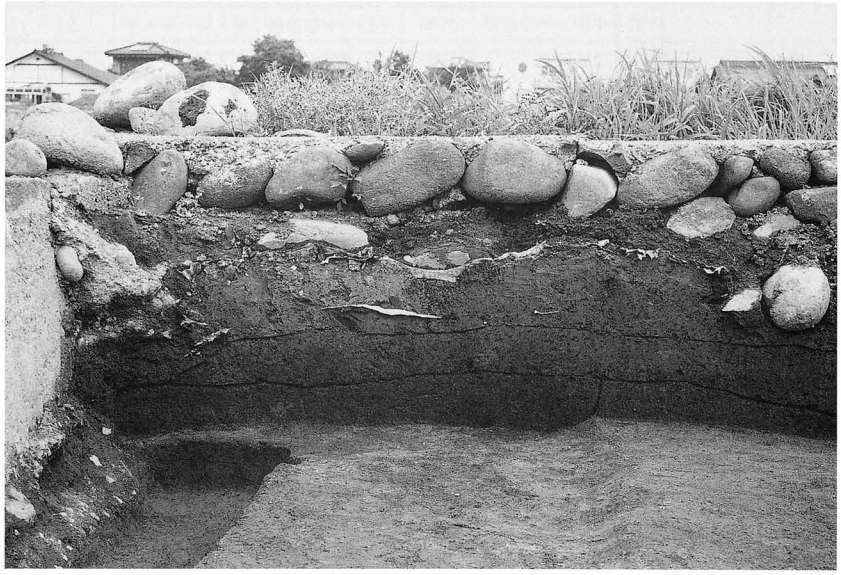
No.	遺　跡　名	発行年	報告書名	時　　代	備　考
1	下横屋遺跡Ⅲ	2003	下横屋遺跡Ⅲ	弥・平・近	
2	下横屋遺跡Ⅳ	2003	下横屋遺跡Ⅳ	縄・弥・古・平	
3	下横屋第２遺跡	2001	下横屋第２遺跡	弥・奈・平	
4	下横屋遺跡	1991	下横屋遺跡	弥・平	
5	北下条遺跡	1991	北下条遺跡	弥・古・奈・平	
6	枇杷塚遺跡	1996	枇杷塚遺跡	古	
7	山影遺跡	1997	山影遺跡	縄	
8	上横屋遺跡	1999	上横屋遺跡	弥・古・奈・平	
9	後田第２遺跡	1996	後田第２遺跡	縄・弥・古・平	
10	後田堂ノ前遺跡	1997	後田堂ノ前遺跡	弥・平	
11	坂井堂ノ前	1996	坂井堂ノ前	弥・古・奈	
12	三宮地遺跡	1998	三宮地遺跡	縄・平	
13	火雨塚古墳		火雨塚古墳	古	
14	後田遺跡	1989	後田遺跡	縄・古・奈・平	
15	堂の前遺跡	1987	堂の前遺跡	弥・平	
16	宮ノ前遺跡	1992	宮ノ前遺跡	縄・弥・奈・平	
17	宮ノ前第２遺跡	1991	宮ノ前第２遺跡	奈・平・中	
18	宮ノ前第３遺跡	1993	宮ノ前第３遺跡	奈・平	
19	宮ノ前第４遺跡	1995	宮ノ前第４遺跡	奈・平	
20	宮ノ前第５遺跡	1997	宮ノ前第５遺跡	縄・奈・平	
21	中田小学校遺跡	1985	中田小学校遺跡	縄・弥・奈・平	
22	金山遺跡	1986	金山遺跡	中・近	
23	前田遺跡	1988	前田遺跡	平	
24	立石遺跡	1994	立石遺跡	弥・古・平	
25	新府城跡	1988～2000	新府城跡	中	国指定史跡
26	坂井遺跡	1998	坂井遺跡	縄・古・平	
27	坂井南遺跡	1997	坂井南遺跡	弥・古・平・中	
28	新田遺跡	1996	新田遺跡	縄・弥・平	
29	飯米場遺跡	2002	飯米場遺跡	縄・古	

第２表　調査区標準土層・遺構覆土説明

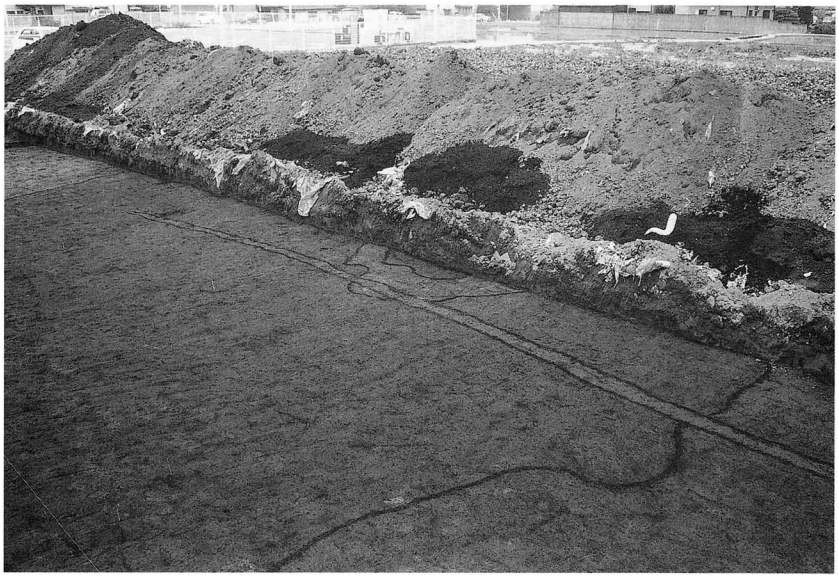
遺構名	層位No.	説　　明
基本層序	Ⅰ	暗灰褐色粘土層　床土
	Ⅱ	暗黄褐灰色土層　鉄分を多く含む。径0.5～１㎜白色・黄色粒子やや少
	Ⅲａ	暗黒褐色砂層　径２～３㎜明黄褐色粒子やや多、黒色土をまだらに含む。
	Ⅲｂ	暗黒褐色土層　Ⅲａ層と堆積年代は同一と考えられるが、土壌化しており、砂はほとんど含まれない。土器片包含層。
	Ⅳ	暗灰褐色砂層　ややキメの粗い砂層。
溝２	1	黒褐色砂層　ⅢｂにⅣを少なく含み黒色。遺物を含む。
	2	灰黒褐色砂層　ⅣとⅢｂの混合土。
１号住	単層	黒灰色土層　Ⅳ層をやや少なく含む。径１～２㎜Ｃやや少。

図版 1

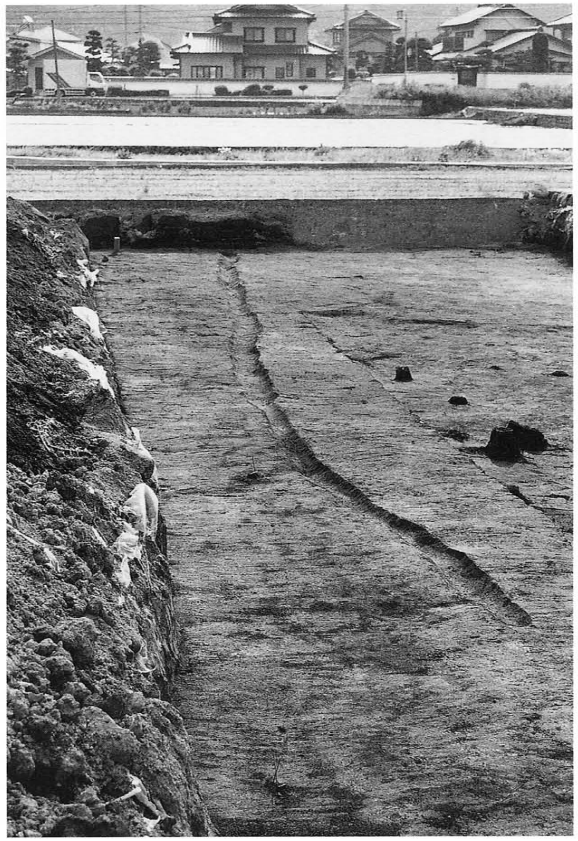
1 号住居確認状況（東から）



1 号住居覆土（南から）



溝確認状況（北西から）



1号溝完掘状況（東から）

2号遺物出土状況（西から）

発掘調査状況

図版2

報告書抄録

ふりがな	しもよこやいせきⅢ
書名	下横屋遺跡Ⅲ
副書名	藤井町北下条字下横屋1526番地地点　宅地分譲地内道路敷設に伴う緊急発掘調査報告書
編著者名	閏間俊明
編集機関	韮崎市遺跡調査会
発行機関	韮崎市遺跡調査会
住所	〒407－8501　山梨県韮崎市水神一丁目３番１号
発行年月日	2003（平成15）年10月22日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
しもよこやいせき	にらさきしふじいまちきたげじょうあざしもよこや	19207	F42	35°43′28″	138°26′56″	2003年６月３日～12日	200㎡	道路建設
下横屋遺跡	韮崎市藤井町北下条字下横屋							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下横屋遺跡	集落跡	弥生時代	溝跡	土器	
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡	土器・磁器	
	その他	近世・近代	溝跡		

下横屋遺跡Ⅲ　―藤井町北下条字下横屋1526番地地点
宅地分譲地内道路敷設に伴う緊急発掘調査報告書―

平成15年10月22日　発行

発　行　韮崎市遺跡調査会
〒407－8501
山梨県韮崎市水神１－３－１
TEL0551-22-１１１１(内250)

印　刷　ほおずき書籍株式会社
長野県長野市柳原2133-５

下横屋遺跡Ⅲ

二〇〇三

韮崎市遺跡調査会